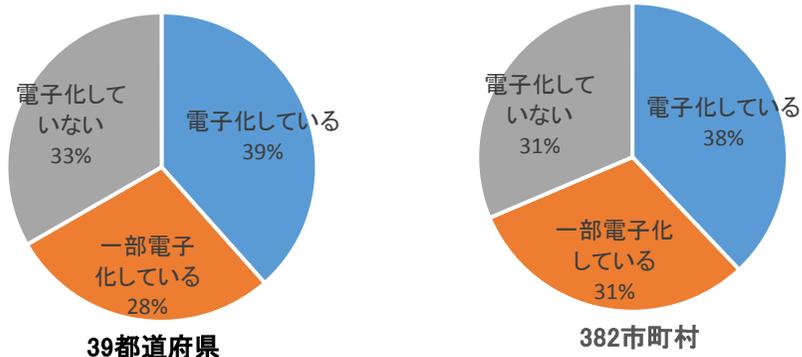


- 施設情報の電子化については、地方公共団体が取組を進めており、約7割の管理者において一部実施を含め、漁港台帳を電子化。また、個別施設計画については、約3割の漁港でデータベースが構築済み。
- 国は、講習会等を活用し、地方公共団体に対し、先行事例の共有やデータベース作成の講習など技術的支援を推進。
- 新たな漁港漁場整備長期計画(平成29年度～平成33年度)では、一定の港勢を有するおおむね900漁港において、データベースの構築を図り、漁港施設情報の集約及び電子化を推進。

漁港施設情報の電子化状況

1. 漁港台帳の電子化状況

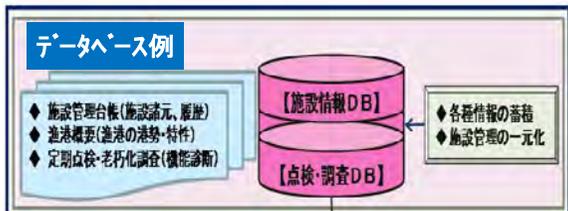
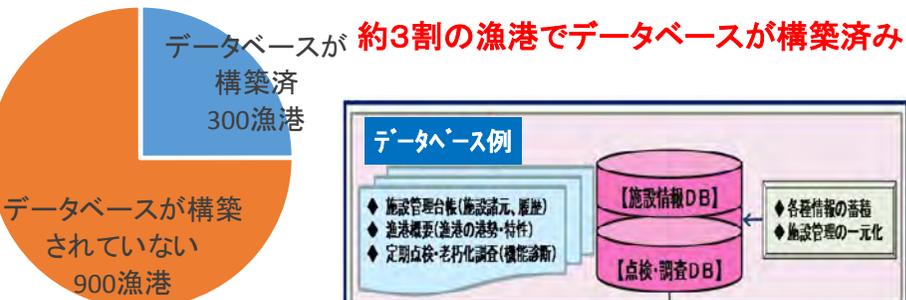


約7割の管理者が電子化を実施

平成27年度 水産庁調査

2. 個別施設計画のデータベース化状況

平成28年度



平成28年度 水産庁調査

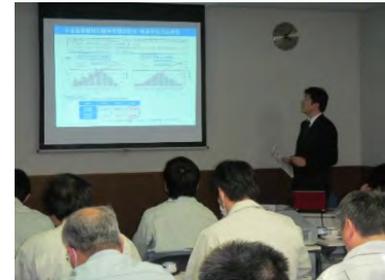
電子化の普及推進

1. 先行事例の共有



漁港施設情報の事例紹介やデータベース作成方法の講習会等を実施し、電子化の普及を推進。

2. 講習会等による技術的支援



情報活用講習会

漁港施設情報の電子化・集約化

平成29年度～平成33年度の5年間で、一定の港勢を有するおおむね900漁港において、個別施設計画のデータベースを構築。

※一定の港勢を有する漁港とは、利用・登録漁船50隻又は陸揚金額1億円以上の漁港

Ⅲ水産業関係 インフラマネジメントの生産性・効率性向上を図るデータプラットフォーム構築等の推進②

- 新たな漁港漁場整備長期計画(平成29年度～33年度)において、漁港漁場整備を効率的、効果的に推進していくため、ICTを活用した施設管理技術の導入を一層推進。
- 現在、一部の地方公共団体では、施設のデータをWEB上でオープン化し、地域に利用されており、今後より一層のオープン化を推進。

【新技術の活用】

漁港施設情報

データベースの活用事例

- 漁港施設について、GIS(地理情報システム)を活用し、現地計測し、各種データベース化。
- 各種の情報を相互にリンクさせたシステムを構築

漁港施設
機能保全
支援
システム

- 漁港情報 DB
- 健全度調査 DB
- GIS 漁港平面図
- データフォルダ

}

統合・電子化

機能保全計画

計画策定

補修工事

(実用事例: 北海道開発局)

長寿命化対策

予防保全の効率化

ICTの活用による漁港施設の状態に関する情報の蓄積・更新、関係者間での情報共有により維持管理業務を効率化

項目名	内容
点検種類	日常点検
最終更新	2015年8月27日 10:49
登録者所属	●●市△△部
場所名	A漁港
対象施設	防波堤
施設位置	上部工
損傷の種類	亀裂
撮影者コメント	No21、機能保全計画上の評価を要確認



機能保全計画で要経過観察として位置づけ

(実用事例: 神奈川県三浦市)

【データのオープン化】

浮魚礁のデータのオープン化

- 浮魚礁の維持管理に用いる位置、海象情報をWeb上で公開

↓

船舶の運航、漁船の安全操業に寄与



集魚効果がある浮魚礁

観測ブイ情報

ブイ位置情報

ブイ位置をクリックするとメニューで選んだ情報のみ表示されます。

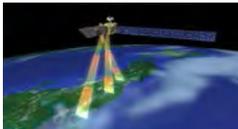
↓

風向・風速・流向・流速等の情報を公開

(実用事例: 宮崎県)

ICTを活用した藻場のモニタリング手法の開発(イメージ)

衛星画像、ドローン等の新技術を活用し、広域かつ高精度に藻場の変動を把握



人工衛星



ソナー曳航体



マルチコプター



WorldView2 2011年1月

漁場環境の把握イメージ

<凡例>

- : マクサ
- : アラメ
- : アマモ
- : 被度5%
- ▨ : 被度20%
- ▩ : 被度50%